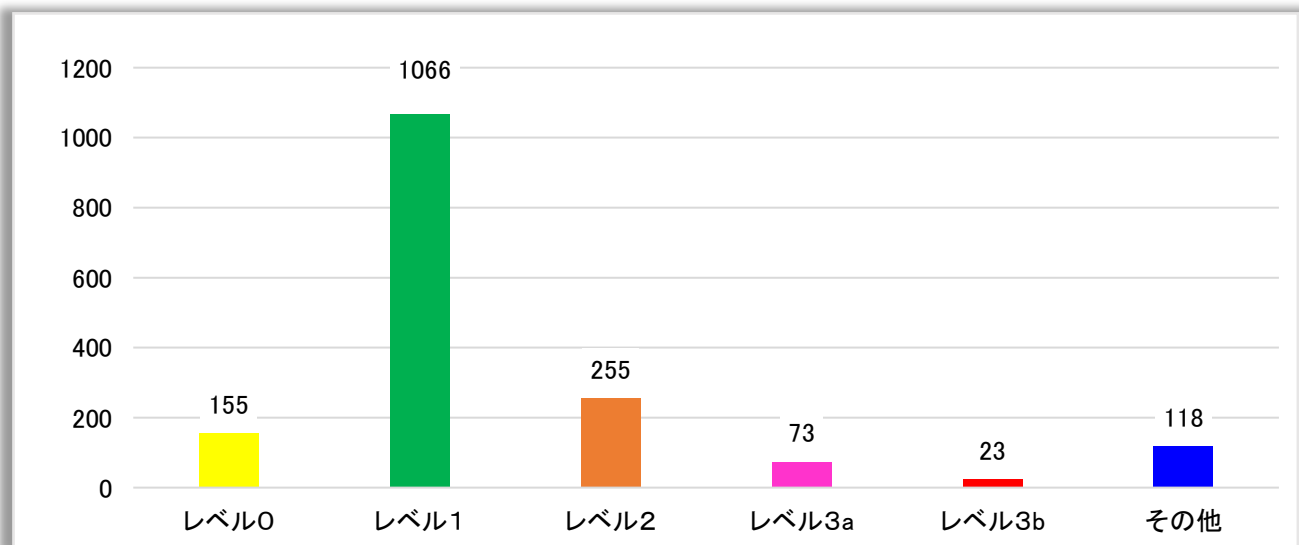


2020年度 年度集計報告(2020年4月1日～2021年3月31日)

【報告概要】

病床数 293 床の 5.8 倍（5 倍以上が好ましいといわれている）であり、インシデントの傾向と分析を行うにあたり十分な報告があった。オカレンス事例や手術バリエーション報告書及び死亡事例報告書の提出は今年度も徹底され、院内の医療安全に関わる事象を全て把握することができた。レベル 3b 以上の報告は前年度 43 件から今年度は 23 件と減少した。そのほとんどが手術と転倒に関連するものである。手術関連は想定される偶発症として術前に説明されており、発生を回避することが困難な事例と検証された。転倒は高齢患者に多くみられ今後の大きな課題と位置づけ予防策を強化する必要がある。

1. 報告総数 1690 件 （インシデント 1549 件 アクシデント 23 件）

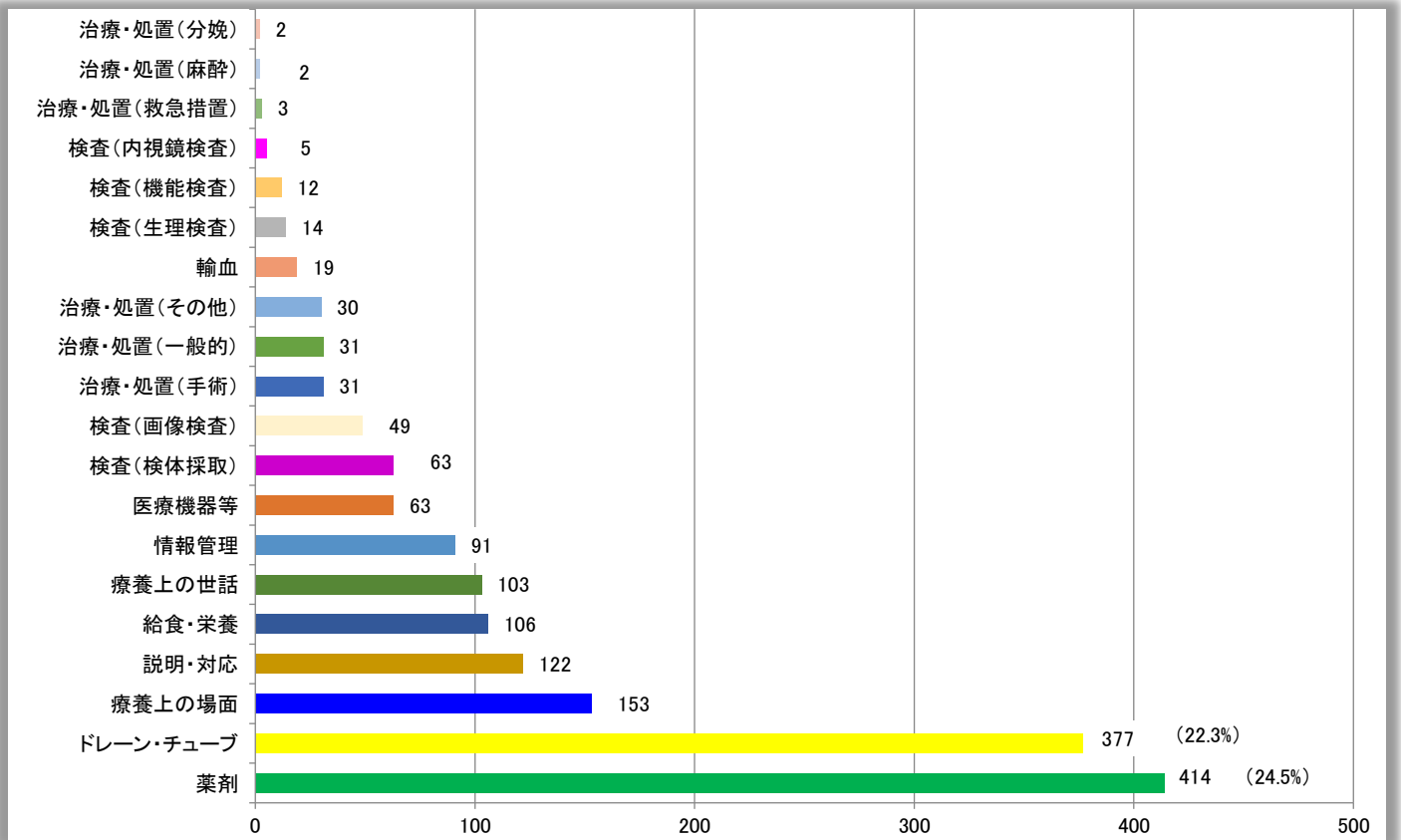


* 参考

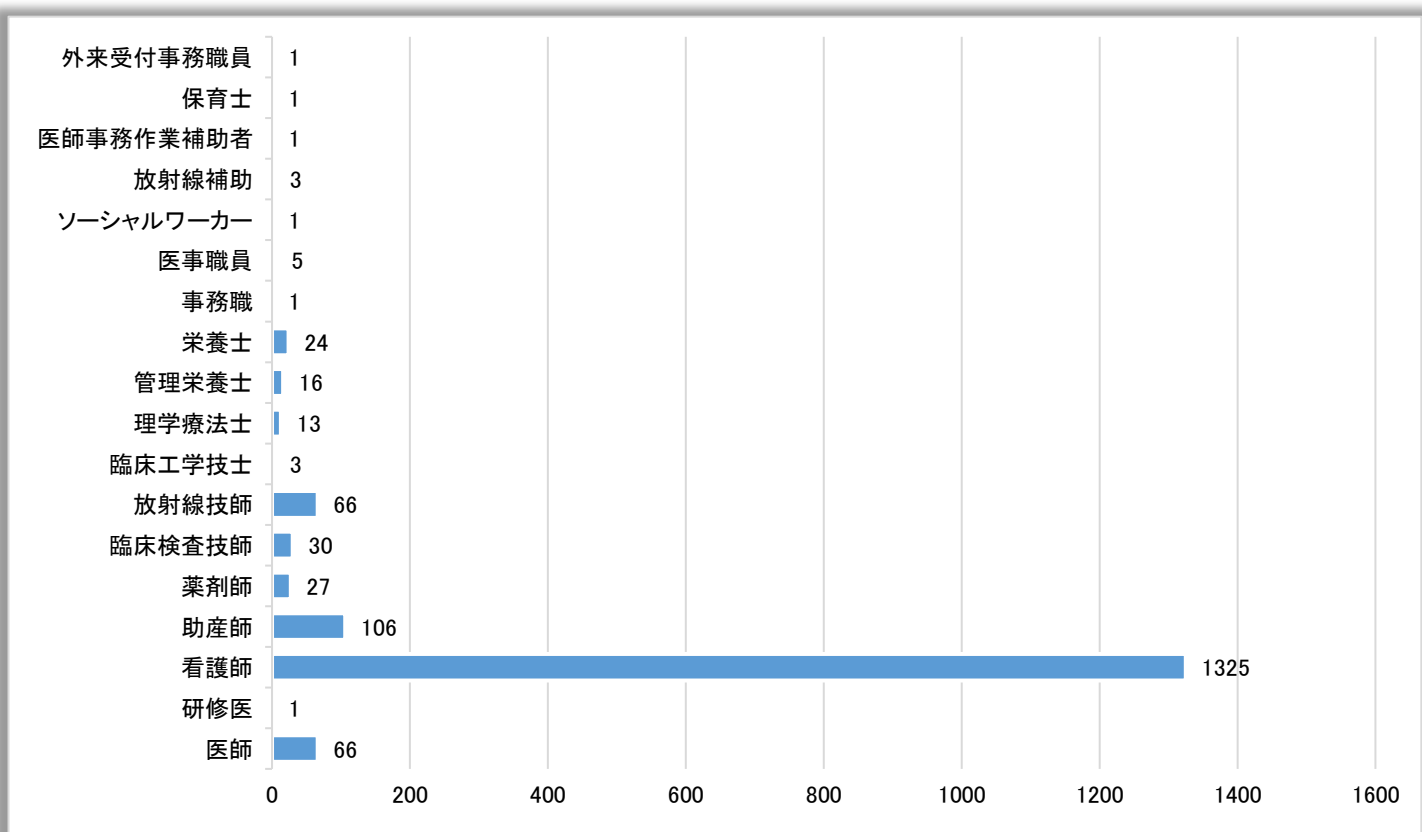
身体影響度のレベルを以下の0～5レベルに分類する。

レベル	障害の継続性	障害の程度	障害の内容
レベル0	—		不適切な医療行為等が実施されなかったが、実施されていたら何らかの影響を与えた可能性がある場合
レベル1	なし		何らかの影響を与えたが、被害がなかった場合
レベル2	一過性	軽度	観察強化、バイタルサインの変化又は検査の必要性が新たに生じた場合
レベル3a		中等度	簡単な処置や治療を要した場合 (消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
レベル3b		高度	濃厚な処置や治療を要した場合 (バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)
レベル4a	永続的	軽度～中等度	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない場合
レベル4b		中等度～高度	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う場合
レベル5	死亡		死亡した場合

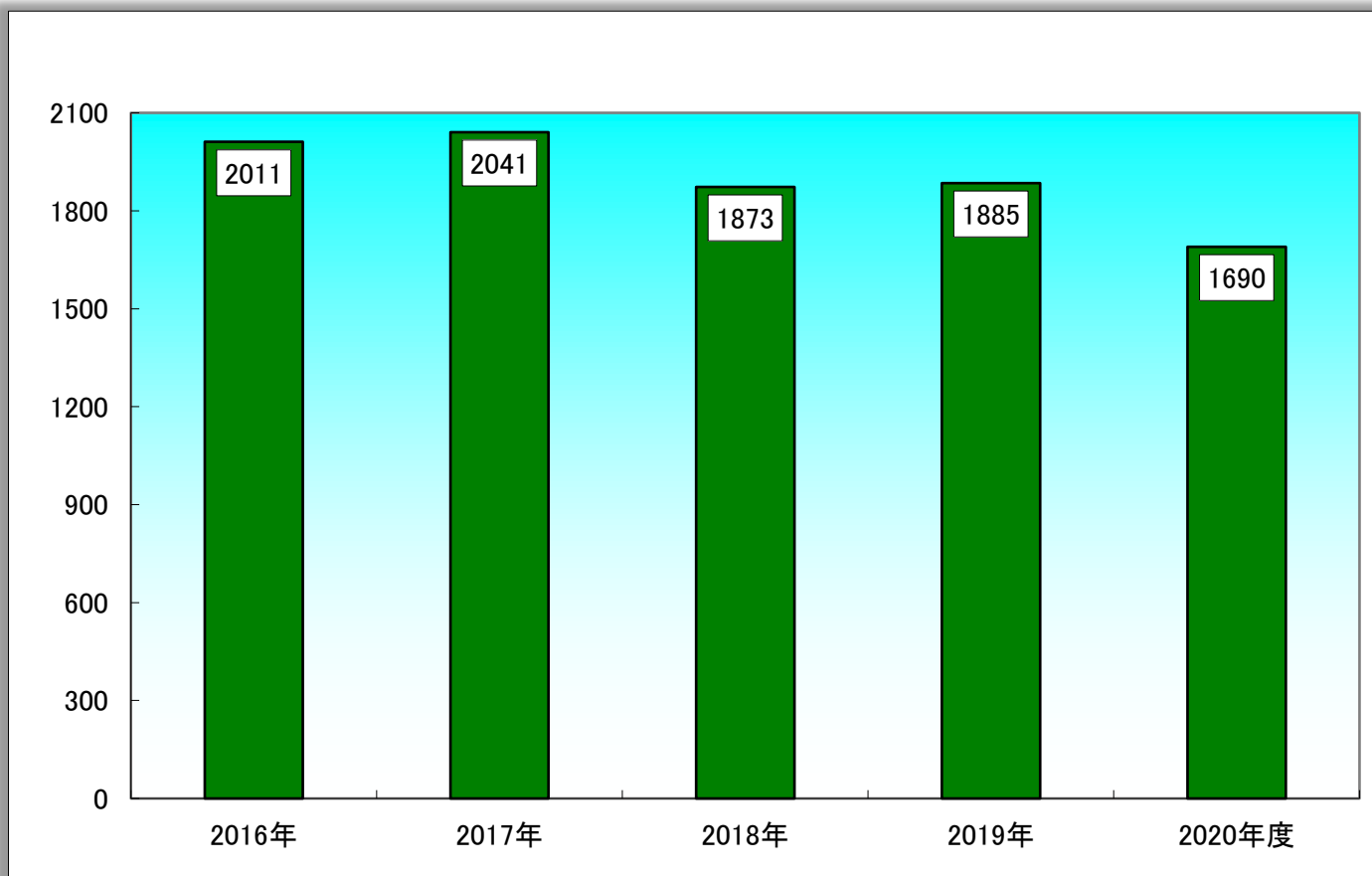
2. 報告内容別件数



3. 報告者職種別件数



4. 報告件数年度別推移



5. レベル別報告数 年度別推移

